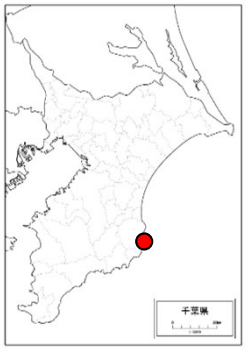
1.【水域：蓄養・養殖水面】資源維持増大のためのマダイ稚魚中間育成への活用:大原漁港(千葉県いすみ市)

概　要

○大原漁港では、マダイ漁が盛んであるため、漁業者及び遊漁船業者によるマダイ種苗放流に対する要望が強い。
○漁港内の静穏域にいけすを設置してマダイ稚魚を中間育成し、地先水域に放流している。
○放流によって資源が維持増大し、漁業者の収益が向上している。



背　景

- 千葉県では、栽培漁業を推進するため、（公財）千葉県水産振興公社・市町村・漁業者と連携して、マダイ・ヒラメなどの種苗生産及び放流を計画的に行っている。
- 大原沖は、黒潮と親潮の恵みにより栄養塩豊富な漁場となっており、昭和初期頃から、はえ縄などによるマダイ漁が盛んな地域である。

有効活用の内容

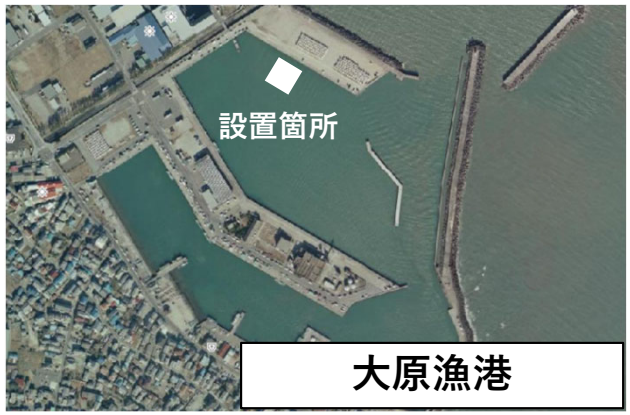
- 漁港内の静穏域で、かつ潮通しのよい港口に生簀を6基連結して設置している。
- 千葉県水産総合研究センターで種苗生産した全長30mmのマダイ稚魚をいけすに収容し、約30日間の給餌期間の後、全長60mm以上に成長したマダイを地先に放流している。
- マダイ中間育成は、（公財）千葉県水産振興公社から夷隅地域栽培漁業推進協議会への委託にて実施し、夷隅東部漁業協同組合の漁業者が飼育管理及び放流を行っている。

活用した漁港施設	水域
実施時期	平成4年頃～
実施主体	（公財）千葉県水産振興公社
活用した事業	なし
実施した手続き	占用許可

効果

- 千葉県で漁獲されるマダイの平成30年度の資源水準は「高位」、資源動向は「増加」と評価される。
- 千葉県における1997～2017年の放流魚の平均回収率（放流尾数に対する放流魚の漁獲尾数の割合）は3.6％であり、放流種苗10万尾当たりの平均回収重量は3.9tと推定され、、資源の維持増大と漁業者の収益向上に貢献している。

いけす外観



大原漁港

放流の様子